

1	楚 ^ノ 恵王、食 ^{ラヒテ} 寒菹 ^ヲ 而得 ^レ 蛭 ^ヲ 、因 ^{リテ} 遂 ^ニ 吞 ^ム 之 ^ヲ 。	
ア	楚の恵王、寒菹を食らひて蛭を得、因りて遂に之を吞む。(「而」置き字)	
イ	楚国の恵王が、寒食節に食べる酢漬けの野菜を食べているときに蛭を見つけ、そのままこれを飲み込んだ。	
2	腹 ^ニ 有 ^{リテ} 疾 ^レ 而 ^ハ 不 ^{ラフ} 能 ^レ 食 ^ヲ 。	
ア	腹に疾有りて食らふ能はず。(「而」は置き字 「不」ひらがな「ず」)	
イ	(そのため恵王は腹に病気を持つようになり、ものを食べることができなくなった。	
3	令尹入 ^{リテ} 問 ^{ヒテ} 曰 ^{ハク} 、「王安得 ^{クンヅタル} 此疾 ^ノ 一 ^ヲ 也 ^ト 。」	
ア	令尹入りて問ひて曰はく、「王安くんぞ此の疾を得たるや。」と。(「也」ひらがな「や」 括弧閉じ)	
イ	国の宰相が(恵王のもとに) 参上し、お尋ね申し上げることに、 「恵王様はどうしてこのような病気にかかれたのでしょうか。」	
4	王曰 ^{ハク} 、「我食 ^{ラヒテ} 寒菹 ^ヲ 而得 ^{タリ} レ ^ヲ 蛭 ^ヲ 。	
ア	王曰はく、「我寒菹を食らひて蛭を得たり。(「而」置き字)	
イ	王が言うことには、「私は寒食節に食べる酢漬けの野菜を食べているときに、蛭を見つけた。	
5	念 ^{フニ} 謹 ^{メテ} 之 ^ヲ 而 ^ハ 不 ^{ラン} 行 ^ハ 其罪 ^ノ 一 ^ヲ 乎 ^ヲ 、是法 ^{シテ} 廢 ^{シテ} 而 ^ハ 威 ^ル 不 ^タ 立 ^タ 也 ^ヲ 。	
ア	念ふに之を謹めて其の罪を行はざらんか、是れ法廢して威立たざるなり。 (「而」×2置き字 「不」×2ひらがな「ざ」「乎」ひらがな「か」「也」ひらがな「なり」)	
イ	(その時に思ったのだが、これをとがめて罪を問いたさなければ、国法は廢れてしまい王の權威も成り立たなくなる。	
6	非 ^{ザル} 四 ^ニ 所以 ^ニ 使 ^{ムル} 二 ^{ヲシテ} 国 ^カ 聞 ^一 也 ^ヲ 。	
ア	国をして聞かしむる所以に非ざるなり。(「使」ひらがな「し」「二」也「ひらがな「なり」)	
イ	(そうかといって(国中のすべての人々に(強圧的に)聞かせるような案件でもない。	
7	謹 ^{メテ} 而 ^ハ 行 ^{ハシメン} 二 ^ヲ 其誅 ^ノ 一 ^ヲ 乎 ^ヲ 、則庖宰 ^チ ・食監 ^ハ 、法 ^{トシテ} 皆 ^{タル} 当 ^レ 死 ^ニ 也 ^ヲ 。	
ア	謹めて其の誅を行はしめんか、則ち庖宰・食監は、法として皆死に当たる。 (「而」置き字 「乎」ひらがな「か」)	
イ	(あるいはまた、)とがめだてして処罰させると、宮中の料理長・監督官などは、国法に照らしてみんな死刑にしなくてはならなくなる。	
8	心 ^ニ 又 ^ル 不 ^ビ 忍 ^ビ 也 ^ヲ 。	
ア	心に又忍びざるなり。(「不」ひらがな「ぎ」「二」也「ひらがな「なり」)	
イ	私の気持ちとして耐えられなくなるのだ。	
9	故 ^ニ 吾恐 ^ハ 二 ^レ 蛭之見 ^{ハルルヲ} 一 ^ヲ 也 ^ヲ 、因 ^{リテ} 遂 ^ニ 吞 ^ム 之 ^ヲ 。	
ア	故に吾は蛭の見はるるを恐れ、因りて遂に之を吞む。」と。(「之」ひらがな「の」 括弧閉じ)	
イ	だから私はこの蛭が他の人の目にもふれるようになることを恐れ、そのまま蛭を飲み込んでしまった。」	

10	令尹避 ^レ 席、再 ^{シテ} 拜 ^{シテ} 而 ^{シテ} 賀 ^{ハク} 曰、 「臣聞、『天道無 ^ク 親、惟 ^ダ 德是 ^レ 輔 ^{クト} 。』」
イ	宰相は座席から離れてかしこまり、丁寧 ^ニ 二度お辞儀をして祝福していることには、「私は『天の神はえこひいさせず、徳のある人だけを助ける』 ということをお聞かせしております。」
ア	令尹席を避け、再 ^{シテ} 拜 ^{シテ} して賀して曰はく、「臣聞く、『天道親無く、惟だ徳を是れ輔く。』と。 (「之」ひらがな「の」・「也」ひらがな「なり」 括弧閉じ)

11	君有 ^ニ 仁德、天之所 ^レ 奉 ^{ズル} 也。
イ	王様には人徳があります、(必ずや)天の神様が助けてくださります。
ア	君に人徳有り、天の奉ずる所なり。(「之」ひらがな「の」・「也」ひらがな「なり」)

12	病不 ^{ラント} 為 ^ラ 傷 ^ト 。
イ	この病気なども(命まで脅かすような)傷とはならないことでしょう。
ア	病傷と為らざらん。」と。(「不」ひらがな「ぎ」 括弧閉じ)

13	是 ^ノ 夕 ^ベ 也、恵王之後 ^{ロヨリ} 、蛭出 ^ヅ 。
イ	この日の夕方、恵王の肛門から、蛭が出た。
ア	是の夕べ、恵王の後ろより、蛭出づ。(「也」置き字 「之」ひらがな「の」)

14	故 ^ニ 其 ^ノ 久 ^{シク} 病 ^{ミシ} 心腹 ^モ 之 ^ユ 疾 ^モ 皆癒 ^ユ 。
イ	故に其の久しく病みし心腹の疾も皆癒ゆ。(「之」ひらがな「の」)
ア	故に其の久しく病みし心腹の疾も皆癒ゆ。(「之」ひらがな「の」)

15	天之視聴、不 ^ル 可 ^{カラ} 不 ^ル 察 ^セ 也。
イ	天の神が私たちのことを視たり聴いたりしていることは、普段から十分に気をつけておかなくてはならない。
ア	天の視聴、察せざるべからざるなり。 (「之」ひらがな「の」・「不」x2ひらがな「ぎ」・「可」ひらがな「べ」・「也」ひらがな「なり」)